

——“国立大学法人北海道大学桂田芳枝賞”の創設を記念して——

北海道大学大学文書館 特別展示

数学者桂田芳枝が切り拓いた 女性研究者の道

【会期】 2023年10月5日(木)～2024年8月5日(月)

【日時】 月～金曜日 9:30～16:30 ※祝日・年末年始(12/29-1/3)を除く

【会場】 北海道大学大学文書館 1階 沿革展示室

(札幌市北区北8条西8丁目)

【問合先】 TEL 011-706-2395

北海道大学大学文書館では、2023年5月、理学部教授を務めた数学者桂田芳枝の研究資料、写真、書簡、愛用品などの旧蔵資料を受贈しました。

桂田芳枝(1911-1980)は、女性が大学に進学することが極めて難しかった戦前期、1940年に北海道帝国大学理学部数学科に入学しました。卒業後、研究者の道に進み、1950年、日本では数学分野で女性初の理学博士号を取得します。1967年には北大で女性初の教授となり、理学部の幾何学講座を主宰しました。この間、位相幾何学の大家、スイス連邦工科大学教授のハインツ・ホップ(Heinz Hopf, 1894-1971)との共同研究など大きな研究成果を上げました。1973年からは北海道大学評議員も務め、大学運営にも関わりました。北大においてはもちろん、日本の女性研究者のパイオニアのひとりです。

このように“女性初”というトピックと共に語られることの多い桂田芳枝ですが、女性云々以前に、専門分野の研究で世界的にリードした数学者でした。本展示では、数学者として桂田芳枝が切り拓いた道を5章の構成でたどります。

【表図】 数学者の道を歩み出した頃
(1951年12月、特別講演)

【裏図】 数学者の道を探していた頃
(1935年8月、ポプラ並木にて友人と)

I. 理学部入学への紆余曲折

“数学好き”の歩み方

II. 研究者への道

日本数学界で女性初の理学博士

III. 数学界の“巨人”に出会う

H.ホップ教授と挑むリーマン空間

IV. 研究も、教育も、大学運営も

北大で女性初の教授

V. 学問とは何か？

フロントランナーからのメッセージ

